8 HIV感染症の医療体制の整備に関する研究（中国四国ブロック）

研究分担者　藤井 輝久
広島大学病院　輸血部　准教授、エイズ医療対策室　室長

研究要旨

中国四国地方のHIV感染症の医療体制の整備を行うにあたり、職種別研修会を行い、受講者のアンケートによる評価を行った。また患者の高齢化に伴い、拠点病院以外の“慢性療養保有病院”や“介護・療養型施設”にも、患者受け入れを働きかける目的で“出前研修”も行っているが、その成果を検証する目的で高齢者及び長期療養関連施設への受け入れ状況を把握した。研修の評価は概ね好評であったが、受け入れ状況は今ひとつ不調であった。そのため、これからは研修者の対象を「病院勤務医」から「開業医」「施設嘱託医」等にシフトしていき、「開業医」においてはHIV検査の受検機会を増やすこと、生活習慣病を患う感染者の地域におけるサポートの役割を担ってもらうことが重要で、そのための研修が必須となると思われた。

A．研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備のために、研修会の開催や教育資材の開発を行うことにある。またそれらを通じて、ケア提供者の人材育成と資質の向上を図ることである。さらに、患者の高齢化を踏まえ、その研修成果として高齢者及び長期療養関連施設への受け入れ状況も把握することも目的とした。

B．研究方法

研修会に関しては、その参加者数と前年度の比較、参加者アンケートなどを集計し解析した。解析の際に、個人情報と思われる項目を除いた。これをもって倫理面の配慮とした。教育資材は、日常診療における患者の声あるいはブロック内の医療従事者のニーズ等に加味し、作成した。また高齢者施設受け入れの調査については、施設名やその責任者を匿名とし、あくまで件数として解析した。

C．研究結果

[1]ブロックでの教育研修

1-1．医師を対象とした研修会

開催日：2017年9月17日、場所：広仁会館（広島大学霞キャンパス内）、参加医師：広島県内8人。

研修会全体の評価は、「よい」もしくは「非常によい」と答えた者が100%であった。評価の高い内容は、「HIV感染症の基礎知識」と題した基調講演であった。講演者は兵庫医科大学の日笠　聡先生であった。その講義のみ飛び入りで聴講した院内の職員もいた。またワークショップは、「HIV感染症で遭遇する日和見疾患の診断と治療」を、PBL形式で行った。具体的には、症例の病歴等をはじめに読み、その後どういった検査データが必要か考え、ファシリテーターに該当検査データを尋ねる、といった方法を取った。参加者は全員、エイズ拠点病院以外の病院勤務医であったので、1人でHIV感染症を疑い、そのために必要な検査を考えていく、プロセスを体験するためにこの形式を用いた。このような形式は今年初めて行ったが、ファシリテーターからは評価が高く、継続するべきとのことであった。しかし、時間が足りなかったようで、参加者の評価は分かれた。これらの研修内容が今後の診療に役に立つかと、同僚や後輩医師へ参加を勧めたいかとの質問には、両方とも全員がそれぞれ「役に立つ」「ぜひ勧めたい」と答えた。

1-2. 歯科医師を対象とした研修会

1）拠点病院勤務医師及び歯科医師会向け研修会

開催日：2017年10月15日、場所：岡山コンベンションセンター、研修参加者は歯科医師・歯科衛生士併せて計61人であった。7回目にして初めて9県全ての歯科医師会からの参加があった。新潟県立新発田病院の田邊嘉也先生より「HIV感染症の基礎と最近の話題」で講演がった。また薬害原告が歯科治療において自己負担が発生することが懸念されるために、「薬害手帳」の周知として厚労省医薬品副作用被害対策室の岡部史哉室長から説明があった。昨年に比べ、県単位でのネットワーク構築の意識の高まりが感じられるものであった。

2）一般開業歯科医向け研修会

開催日：2017年12月3日、場所：大竹商工会議所（広島県大竹市）、研修参加者は16人であった。講演者は兵庫医科大学の日笠　聡先生と大阪薬害HIV原告団の森戸克則氏であった。例年この研修会の参加者から、「広島県HIV歯科診療ネットワーク」に参加者が出てきており、アンケートでも前向きな回答が多かった（図1）。

1-3. 拠点病院に勤務する看護師を対象とした研修会（広島大学病院内で開催）

1）基礎コース（2回）

開催日：2017年6月14～15日、7月5日～6日。参加人数は2回の合計で26人。

研修後、参加者全員にアンケート調査を実施したところ、研修全体の評価は7点満点中平均6.1で昨年よい0.3ポイント低下した。プログラム内容別の評価として、6点以上は「医学的な基礎知識の講義」（6.2）、「セクシャリティについての講義」（6.0）、「MSMの患者の体験談」（6.6）、「心理的支援」（6.1）、「ロールプレイ」（6.2）であった。逆に比較的評価が低いものとして、「自分の価値観を知るためのワークショップ」（5.3）、「賛成？反対？」（5.2）であったが、全てのセッションで内容は平均5を超えており、概ね好評であった。次年度は内容の大幅な変更を予定している。

2）アドバンストコース（1回）

開催日：2018年1月20日、参加人数は18人。対象者は、本院の基礎コース又は他ブロックのブロック拠点病院で研修を受けた者、または中国・四国ブロックの拠点病院でHIV感染者の看護の経験がある者とした。昨年アドバンストコースは行わなかったためか、過去最高の参加者数となった。同様に研修後アンケート調査を行い、内容を評価してもらった。7点満点で最も評価の高かったのが、「事例検討」で6.2であった。全内容とも5点以上で概ね好評であったが、「長期療養」に目を向けた内容がよりポイントが高い傾向にあった。

1-4. 中国四国ブロック内の拠点病院に勤務またはその院外薬局の薬剤師を対象とした研修会

開催日：2017年7月29日～30日。場所：センチュリー21（広島市内）。参加者は43人（内、院外薬局薬剤師3人）で、他ブロックからも6人の参加があった。

アンケートは定量的な評価ではなく、感想を記載する形式で行った。ブロック内では、まだHIV診療チームといったチーム医療が確立していない拠点病院が多く、他職種（特に心理士、ワーカー、医師）との合同でディスカッションを行うことが、新鮮でかつ刺激的な内容であったとの評価が多かった。また拠点病院の医師が抗HIV薬に詳しくないために、薬剤師があたかも医師の代わりにレジメンを決定しているところもあった。その点でも薬剤師のモチベーションを維持する研修内容であった。

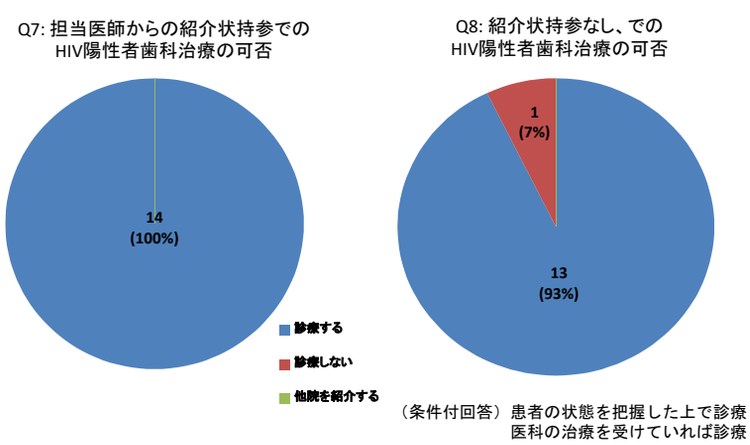

図1　広島県歯科医師会の会員向け講習会アンケート　有効回答数：14

1-5. エイズ拠点病院に勤務するソーシャルワーカーを対象とした研修会

開催日：2017年8月26日～27日、場所：TKP岡山カンファレンスセンター（岡山）、参加者数は20人で全員HIV感染者のケースワーク経験者であった。1日目は研修会、2日目は会議として各拠点病院の現状報告と、難渋事例の検討会を行った。

研修会では「HIVに関する基礎講義&最新情報」「HIV陽性者への医療ソーシャルワーク」の講演と共に、「患者の生の声を聞き現状を理解する」目的で、薬害被害者とMSM感染者のサポートグループから発言があった。アンケートでは、薬害被害者からの講演が最も評価が高かった。各拠点病院の現状報告では、昨年香川県立中央病院では中核拠点病院である香川大学よりも多くの患者を診療している実態が明らかとなったが、この度も本院が把握している以外の患者（岡山大学で1人薬害被害者の患者を診療、高松赤十字病院の現通院患者数21人など）の存在が明らかとなった。

事後アンケートでは、ワーカーにとってあまり研修の機会がないことが明らかとなり、その点で、今後も「患者の声を聞く」「困難事例の検討」を中心に継続を望む声が多かった。

1-6. 心理士（カウンセラー）を対象とした研修会

1）心理職対象HIVカウンセリング研修会（初心者向け、広島大学病院内で開催）

開催日：2017年10月14日、参加者は2人。この度の参加対象者は、今後派遣カウンセラーを目指す臨床心理士としたため、参加者は大幅に前年度を下回った。しかし、逆に個人指導的な内容となり、受講者にとっては非常に充実した内容であったと思われた。なお、今後研修主体は「広島県臨床心理士会」になることが確認された。

1-7. 四国地方の医師・看護師を対象とした研修会

開催日：2017年9月24日、参加者29人、場所：愛媛県薬剤師会館。愛媛県からの参加が23人と最も多く、他に高知4人、徳島、香川から各1人の参加があった。内容は講義（①「HIV感染症のいろは」②「最近の話題の病態～HAND～」）と検査の告知の場面のロールプレイが主であった。昨年、ロールプレイのディスカッション時間が短いとの声を受けて、長めに行った。また毎年恒例のクリッカーを使った全員参加のQ&Aも好評であった。

1-8. 出前研修

精神科及び認知症リハビリ施設を持つ医療法人1件（併設施設を含めると職員数が多いので、同じ内容を2回）、地域包括医療センター4件、特別養護老人ホーム1件の計6回行った。共に研修後聴衆者の理解や意識が高くなったと思われるアンケート結果であった。この度、その中から新たな受け入れ施設は現れなかったが、それは本院から紹介すべき患者が今年度はいなかったからとも言える。

1-9. その他

「その他」とは、実施主体（主催）が本院ではないが、分担研究者やその研究協力者が研修の立案に大きく関与し、かつスタッフとして協力した研修会である。

1）心理士・福祉士向け専門研修会（薬剤師向け研修会と同時並行：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2017年7月29日～30日。場所：センチュリー21（広島市内）。参加者は計8人（心理職4人、福祉職4人）であった。

2）広島市医師会の研修会

開催日：2017年5月27日。参加者は広島市医師会各区の代表者1人ずつ。広島市医師会主催の「HIV相談会」に向けた研修。内容は「HIVの基礎知識」と「検査結果説明のロールプレイ」であった。

3）全職種を含めた研修会（包括カウンセリングセミナー：広島県臨床心理士会主催）

開催日：2018年3月3～4日。毎年ブロック内の中核拠点病院及び広島県の拠点病院のHIVケアチームがそれぞれ問題症例を持ち寄り、多職種でディスカッションするもの。開催場所も中国四国内で行われる。今年度は島根大学医学部附属病院が当番施設で、松江で行われる。例年高評価を得ている。

4）高齢者施設における感染症対策～ノロウイルスからエイズまで～

開催日：2017年12月8日。白阪班（課題克服班）の出張研修の受け入れを県が行い、開催されたもの。内容のアレンジや講師の選定などの企画に参加した。

[2] エイズ関連の情報提供

2-1. 中四国エイズセンターホームページ（http://www.aids-chushi.or.jp）

本院主催の会議や研修会の様子を掲載した。また後述する小冊子の案内や、中国四国地方で行われるエイズ・HIVに関する研修会、イベントなどの案内

を掲載した。またスマートフォンにも対応している。アップデート回数は年間73回で、今年度新たにアップしたコンテンツは、「（せるまね）～病院受診＆服薬をサポートする管理アプリ」と「血友病薬害被害者の方対象の検査入院について（平成29年度版）」であった。2017年の年間閲覧回数は29,675回であり、引き続き多くの閲覧が得られている。

2-2．小冊子・パンフレット等

「HIV検査について～HIV感染のリスクを考えて検査を行う医療者のためのガイドブック～」を増刷、また「初めてでもできるHIV検査の勧め方・告知の仕方」を第7版にアップデートした。

さらに、「血友病まね～じめんと」は増刷、「これなら大丈夫、HIV感染症プライマリケア診療ガイド」「知らないままでいいの？　ケツユウビョウのあれこれ」は、それぞれ第3版にアップデートした。

2-3．患者受診・服薬支援アプリ（せるまね）

昨年度Apple版をリリースし、本年度はAndroid版をリリースした。さらに、他病院受診者にも使用できるように、ホームページにQRコードを掲載した。アプリダウンロード数は4ヶ月で190件であった。本院での利用者は49人であり、またこのアプリの利用により、「自立支援医療制度の更新忘れ」が大幅に減り、かつ患者自身が更新の手続きを行うこと（自立支援医療制度利用者の83%）ができるようになった。

[3]高齢者及び長期療養関連施設への受け入れ状況の把握

前述の如く、高齢者向けの研修会や出前研修は例年通り行っている。

2009年から2017年末までに高齢者・長期療養関連施設への受け入れ実績は、16名22施設であった（図2）。受け入れ前にHIV関連の研修受講の有無は、研修を希望しなかったため17施設が受講しなかったが、医療行為を伴う可能性が高い病院においては、研修または事前のカンファレンスを行っていた。

D．考察

研修については、例年通り各職種別に年間最低1回は行っているが、その効果を検証する機会がなかった。その一つの機会として、昨年中核拠点病院等看護担当者連絡会議（通称：HIV担当看護師ネットワーク会議）を立ち上げ、看護師対象とした研修がどこまで生かされているか検証した。今年も同様の会議を行ったが、患者数が少ないため「専任」になれない、看護部のローテーションで例外が許されていない、など、各施設で「HIV専任看護師」が育ちにくい状況が依然としてあることが分かった。一方で、研修を受けた看護師のモチベーションは高く維持されていることも明らかになったのでで、今後も振り返りの会議を継続して行い、施設間のコミュニケーションを増やしてモチベーションを保つ努力をすべきと思われる。

医師については、非常に厳しい状況は続いている。しかし、有効かつ副作用の少ない安全な抗HIV薬の開発により、患者の予後が改善し、治療も単純化しつつあるこの疾患においては、必ずしも「専門家」を育てる必要はないのかも知れない。今後患者の余命が延長し、高齢化を迎えるに当たって、HIV感染症はその一つの合併症に過ぎず、生活習慣病や癌、肺炎など非感染者の高齢者にも発症する疾患がより問題となってくるからである。そのため、これからは研修者の対象を「病院勤務医」から「開業医」「施設嘱託医」等にシフトしていき、「開業医」においてはHIV検査の受検機会を増やすこと、生活習慣病を

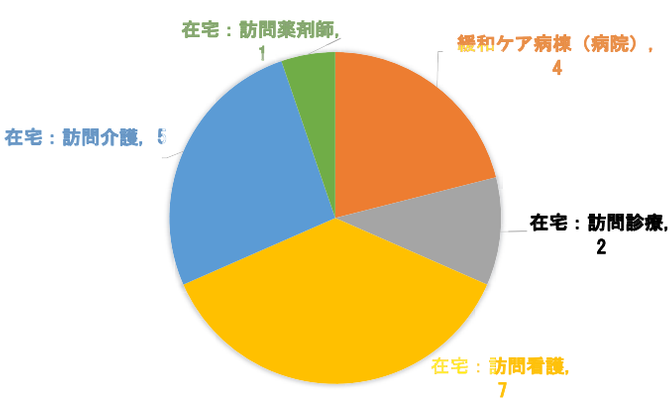

図2　高齢者及び長期療養施設受け入れ状況（N=22）2009年～2017年

患う感染者の地域におけるサポートの役割を担ってもらうことが重要で、そのための研修内容の変更が必要となるであろう。「施設嘱託医」は高齢のことが多く、医学的知識のアップデートは困難な集団ではあるが、少なくとも偏見をなくし、スムースな受け入れを承諾する立場になってもらう必要がある。今後も、出前研修等を通じて訴えて行きたい。

高齢化する患者は、急性期病院であるエイズ拠点病院より慢性期の診療にあたる慢性療養病床保有病院、施設、在宅へと、その診療の場がシフトしていく。非拠点病院や施設（透析、介護、身障者）では、まだエイズに対する知識と意識が低く偏見も根強いことが、出前研修やこの度の高齢者及び長期療養関連施設への受け入れ状況把握調査においても垣間見ることができた。こういった医療、介護施設にもこの地域のHIV感染者・患者が安心して不当な差別を受けることなく、安心して希望する医療、介護を受けられるようにしなければならない。

E．結論

ブロック内のエイズ拠点病院に対する研修は漫然と同じ内容を繰り返さず、その効果を検証することが求められている。一方で、非拠点病院や施設の医療従事者に対しては、正しい知識を広め、患者の受け入れ拒否がないよう、小冊子を作成して非専門病院・施設に配布し、かつ「出前研修」を頻繁に行うことで理解を促していく必要がある。そのためには県担当課等との連携を密にする必要がある。

F．健康危険情報

特になし

G．研究発表

1．発表論文

1) 山﨑尚也、藤井輝久、齊藤誠司、浅井いづみ、小川良子、金崎慶大、喜花伸子、池田有里、木下一枝、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、高田昇：広島大学病院におけるHIV感染者の骨代謝異常症の現状と原因の検討.日本エイズ学会誌.2017;19(1):32-36.
2) 齊藤誠司、山崎尚也、藤井輝久、高田昇:HIV/HCV重複感染症例のHCVに対する治療成績と長期予後の検討. 感染症誌.2017;91(6):472-479.

2．学会発表

1) 山﨑尚也、齊藤誠司、藤井輝久：HIV患者におけるニューモシチス肺炎再発予防はいつまでにするべきか.第91回日本感染症学会総会・学術講演会 第65回日本化学療法学会学術集会 合同学会.2017年4月6日-8日.東京
2) 池田有里、木下一枝、宮原明美、神田里恵子、丸山栄子、村上英子、杉本悠貴恵、喜花伸子、齊藤誠司、山﨑尚也、藤井輝久:HIV/AIDS診療における病診連携の課題. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
3) 杉本悠貴恵、喜花伸子、山﨑尚也、齊藤誠司、藤井輝久、丸山栄子、宮原明美、池田有里、木下一枝、石井総一郎、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、村上英子、高田 昇:広島大学病院のHIV陽性者への心理検査に至った経緯とその後の心理的支援について. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
4) 丸山栄子、山根由衣、宮原明美、池田有里、木下一枝、山﨑尚也、藤井輝久、齊藤誠司、杉本悠貴恵、喜花伸子、村上英子、藤井健司、高田昇:抗HIV薬服用中の患者における服薬アドヒアランスの維持･向上方法の検討. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
5) 横幕能行、伊藤俊広、山本政弘、岡慎一、豊嶋崇徳、田邊嘉也、渡邉珠代、白坂琢磨、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、小島賢一、内藤俊夫、安藤稔:拠点病院定期通院者の抗HIV療法によるHIV複製制御の達成度評価-我が国のHIV感染症/エイズ診療体制整備の成果-. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
6) 喜花伸子、杉本悠貴恵、高浦睦美、松岡明子、山﨑尚也、齊藤誠司、藤井輝久、丸山栄子、宮原明美、池田有里、木下一枝、村上英子、高田昇:広島大学病院における薬物再乱用防止プログラム導入状況の報告. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
7) 岡崎玲子、蜂谷敦子、潟永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南留美、吉田繁、小島洋子、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、寒川整、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、古賀道子、林田庸総、岡慎一、松田昌和、重見麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久:国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京

8) 萩原剛、四柳宏、藤井輝久、遠藤知之、長尾梓、三田英治、横幕能行、伊藤俊広、浮田雅人、渡邉珠代、四本美保子、鈴木隆史、天野景裕、福武勝幸:HIV合併症を含む血友病患者におけるC型慢性肝炎のDAA治療において保険適用外となるHCVジェノタイプに対する治療の試み. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
9) 岡田美穂、松井加奈子、岩田倫幸、新谷智章、木下一枝、宮原明美、池田有里、齊藤誠司、丸山栄子、濱本京子、山﨑尚也、藤井輝久、柴秀樹：HIV感染者の歯科診療支援における歯科衛生士の活動とその支援効果. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
10) 山崎尚也、齊藤誠司、藤井輝久、高田昇:HIV患者におけるニューモシスチス肺炎の一次予防および二次予防はいつまでするべきか. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
11) 小川和彦、春日真由、彌重典子、石井聡一郎、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、藤井輝久、若生あき:保険薬局におけるカンファレンス参加への取り組み. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京
12) 村上英子、山﨑尚也、藤井輝久、宮原明美、池田有里、木下一枝、石井聡一郎、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、杉本悠貴恵、丸山栄子、喜花伸子、齊藤誠司、高田昇:受診・服薬継続管理アプリの自己管理機能活用がHIV陽性者の管理能力に与える影響について検討. 第31回日本エイズ学会学術集会・総会.2017年11月24日～26日.東京

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし